

野菜の需給・価格動向レポート（平成30年3月26日版）

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	2月の価格情報		3月の価格情報		3月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量（t）内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						
葉菜類	キャベツ	96.86	245 (253%)	96.86	160 (165%)	110 (114%)	・9,203t (106%)	愛知(59), 神奈川(20)		愛知産及び神奈川産は、気温上昇と適度な降雨により、概ね順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 愛知産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は引き続き平均並みで推移する見込み。
		92.10	244 (265%)	92.10	160 (174%)	106 (116%)	・3,681t (105%)			
	たまねぎ	83.77	104 (125%)	83.77	107 (128%)	109 (130%)	・6,639t (102%)	北海道(75), 静岡(9)		北海道産は、貯蔵ものの計画的な出荷となっており、作柄も平年並み以上であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		83.77	99 (119%)	83.77	103 (123%)	105 (125%)	・2,549t (99%)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	127.15	415 (327%)	127.15	426 (335%)	344 (270%)	・1,403t (95%)	千葉(47), 埼玉(26)		千葉産は、秋冬ねぎから春ねぎの切替時期となるが、一部のほ場では春ねぎは生育遅れがみられることから、現在平年並みの出荷は、今後は少なめの出荷の見込み。埼玉産は、適度な降雨により生育は良好で、春作への切り替えも順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 埼玉産の出荷は平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		473.04	1023 (216%)	473.04	841 (178%)	390 (82%)	・168t (93%)			
	はくさい	64.18	161 (251%)	64.18	140 (218%)	103 (161%)	・1,986t (102%)	茨城(61), 兵庫(22)		茨城産は、1月下旬の降雪により、正品率に影響がみられるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、昨秋の天候不順や低温の影響で小玉傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷は平年並み又は平年より少なめと見込まれるものの、4月以降茨城産の春作の出荷増が見込まれることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		68.70	181 (264%)	68.70	145 (211%)	100 (146%)	・1,278t (109%)			
	ほうれんそう	338.43	500 (148%)	338.43	393 (116%)	357 (105%)	・906t (149%)	茨城(35), 群馬(26), 千葉(14)		茨城産及び群馬産は、生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、気温の上昇により徒長気味なほ場があるものの生育は順調なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 茨城産、群馬産及び千葉産の出荷が平年並み又は平年より多めと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		375.38	536 (143%)	375.38	365 (97%)	298 (79%)	・419t (153%)			
	レタス (結球)	233.85	271 (116%)	189.66	193 (102%)	120 (63%)	・4,809t (163%)	茨城(51), 兵庫(9), 静岡(7)		茨城産は、遅れていた秋冬作の出荷がずれこんでいることに加え、春作の生育が順調で出荷が重なっていることから、現在平年並みの出荷は、今後はやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、2月の低温、降雪による肥大遅れが回復したことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。静岡産は、2月の低温、降雪による肥大遅れが回復したことから、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。 茨城産の出荷が平年より多めと見込まれ、兵庫産及び静岡産の出荷が平年並み又は平年並みに回復すると見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		226.75	293 (129%)	193.43	192 (99%)	120 (62%)	・1,293t (166%)			
果菜類	きゅうり	370.98	292 (79%)	266.63	293 (110%)	286 (107%)	・3,715t (116%)	群馬(23), 宮崎(19), 千葉(15), 埼玉(15)		群馬産及び宮崎産は、生育は順調で、着果も良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、越冬作の出荷がピークを過ぎ、曇天の影響で一時的に出荷減になると見込まれることから、現在平年並みの出荷は、今後は平年より少なめの見込み。 群馬産及び宮崎産の出荷が平年並みと見込まれ、千葉産の出荷が一時的に平年より少なめとなるものの、4月以降増加すると見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		350.33	290 (83%)	254.91	281 (110%)	278 (109%)	・1,217t (122%)			
	トマト (大玉)	349.23	346 (99%)	356.77	331 (93%)	311 (87%)	・3,373t (115%)	熊本(26), 栃木(26), 愛知(12)		熊本産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、小玉傾向であるものの、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、年明け以降の低温により遅れ気味であった生育が、気温の上昇により回復傾向にあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 熊本産、栃木産及び愛知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。
		326.61	330 (101%)	337.87	318 (94%)	301 (89%)	・1,260t (122%)			
	なす	389.03	455 (117%)	347.77	441 (127%)	427 (123%)	・1056t (108%)	高知(59), 福岡(20)		高知産及び福岡産は、一部ほ場で病気が発生しているものの、生育は概ね順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みの出荷と見込まれ、今後高知産の出荷がさらに増加する見込みであることから、現在平均を上回っている価格は平均に近づくものの、引き続き平均を上回って推移する見込み。
		397.74	437 (110%)	330.95	419 (126%)	395 (119%)	・482t (122%)			
ピーマン	578.80	689 (119%)	578.80	617 (107%)	549 (95%)	・854t (107%)	茨城(36), 宮崎(31), 高知(17)		茨城産、宮崎産及び高知産は、生育は概ね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 茨城産、宮崎産及び高知産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。	
	565.30	632 (112%)	565.30	566 (100%)	512 (91%)	・394t (113%)				宮崎(44), 高知(25), 鹿児島(9)
根菜類	だいこん	79.03	161 (203%)	79.03	157 (199%)	100 (127%)	・6,168t (119%)	神奈川(55), 千葉(38)		神奈川産は、細ものが多いものの、気温の上昇とともに、春作の生育が順調なことから、現在少なめの出荷は、今後は平年並みに回復する見込み。千葉産は、10月の台風後に播種したトンネル作が出荷されていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 神奈川産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれ、需要も気温の上昇とともに落ち着くと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。
		80.47	146 (181%)	80.47	152 (189%)	99 (123%)	・2,265t (131%)			
	にんじん	111.16	163 (146%)	111.16	168 (151%)	196 (176%)	・2,024t (76%)	千葉(52), 徳島(32)		千葉産は、秋冬作が出荷終了で、昨秋の天候不順により肥大不足で細もの出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。徳島産は、肥大促進のため播種量を減らした栽培をおこなっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産及び徳島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。
109.97		188 (171%)	109.97	184 (168%)	184 (167%)	・425t (51%)	鹿児島(49), 徳島(33), 愛知(11)			

注：1 平均価格は、過去6カ年（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで平成28年実績である。
5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	2月の価格情報		3月の価格情報		3月中旬の関東及び近畿ブロックの入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格					
いも類	さといも	228.85	269 (118%)	228.85	281 (123%)	274 (120%)	・139t (80%)	↑	埼玉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、昨秋の天候不順により小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、作付面積の減少に加え、定植時の干ばつ傾向により肥大が進まず、小玉傾向となっていることから、平年よりやや少なめのまま3月下旬に出荷終了。
		219.65	228 (104%)	219.65	200 (91%)	196 (89%)	・26t (81%)		
	ばれいしょ	96.99	116 (119%)	96.99	112 (115%)	107 (110%)	・3,497t (121%)	↓	北海道産は、貯蔵ものからの計画的な出荷となっており、L及びMサイズ中心の出荷となっているものの、作柄は良好であったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、一部産地で肥大遅れがみられるものの、概ね生育は回復したことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		96.99	112 (116%)	96.99	106 (109%)	97 (100%)	・1,168t (109%)		

注：1 平均価格は、過去6カ年(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
 2 旬別平均販売価格の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。
 5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したものである。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	2月の価格情報		3月の価格情報		2月下旬の東京都・大阪市場の入荷量()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	3月の主産地	生育及び価格の4月上旬までの見通し		
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格					
洋菜類	ブロッコリー	274.14	471 (172%)	248.94	315 (127%)	288 (116%)	・1,244t (221%)	↑	愛知産は、気温上昇により生育が回復し、遅れていた分を出荷していることから、引き続き平年並みで推移する見込み。香川産は、遅れていた分を出荷しているが、秋冬物が終盤を迎え端境期を迎えることから、現在平年より多めの出荷は、今後は平年より少なめの出荷の見込み。
		367.08	474 (129%)	336.11	290 (86%)	250 (74%)	・317t (190%)		
葉茎菜類	こまつな	345.29	450 (130%)	282.42	321 (114%)	224 (79%)	・363t (139%)	↓	茨城産は、好天により生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、気温上昇により生育が回復し遅れていた分を出荷しているが、秋冬物が終盤が発生する見込みであることから、現在平年より多めの出荷は、今後は平年並みの出荷の見込み。
		358.21	455 (127%)	252.78	309 (122%)	184 (73%)	・149t (143%)		
根菜類	かぶ	141.29	199 (141%)	140.95	161 (114%)	135 (96%)	・372t (111%)	↑	千葉産は、遅れていた生育が回復傾向にあることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		140.01	249 (178%)	158.05	188 (119%)	143 (90%)	・27t (95%)		

注：1 平均価格は、過去5カ年(平成25～29年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
 2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
 3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
 4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック - いちごの需給動向について -

今回は出荷が最盛期となっているいちごを紹介する。

原産地と日本への渡来
 栽培用のいちごは、18世紀にオランダで南アメリカのチリ種と北アメリカのバージニア種が交配され、大粒の品種が育成されたのが起源といわれている。その後、イギリス等で品種改良されてアメリカに伝わった。
 日本には、江戸時代末期にオランダ人によって長崎に伝えられたことで、「オランダイチゴ」と呼ばれていた。しかし、野生のいちごを食べていた当時の日本人にとって、あまりにも大粒だったので普及しなかった。
 日本では、明治32年(1899年)に福羽逸人博士がフランスの品種を改良し、これを「福羽」と命名し、栽培が開始された。戦後の高度成長に伴って、ハウス栽培が普及し、「福羽」から多くの品種が生まれ、生産量が飛躍的に増え、身近なものとなった。

主な種類と特徴
 明治32年(1899年)に「福羽」の栽培に成功したのをきっかけに、これを「交配種」として次々と新品種が生まれた。1960年代までは春から初夏にかけて出荷されていたが、食生活の変化で需要が増加し、また、クリスマス需要にも対応するため、ハウス栽培の普及や品種改良により11月から6月に出回る冬春いちごの栽培体系が確立されている。国内産の出荷量が極端に少ない夏場には、業務用として米国産いちご等が輸入されている。また、ロールケーキ等スイーツの高級志向の高まりから、国産いちごの業務需要も増加している。

生産状況等
 「野菜生産出荷統計」によると、平成19年に6580ヘクタールあった作付面積は平成28年には5370ヘクタールと徐々に減少している。出荷量も同様に平成19年の17万3000トンから平成28年の14万5000トンと徐々に減少している(図1)。28年の産地別出荷量では最も多いのが栃木県の2万3400トンで全国の16%を占めている。2番目が福岡県の1万4800トン(同10%)となっている(図2)。東京中央卸売市場における平成28年の入荷量は、冬から春にかけて多くなり、3月が最も多い5252トン入荷となっている(図3)。「日本貿易統計」によると、いちごの輸入は、直近10年では3万トン台となっており、冷凍で輸入されるものが最も多く7～8割を占めている(図4)。

図1 いちごの作付面積と出荷量

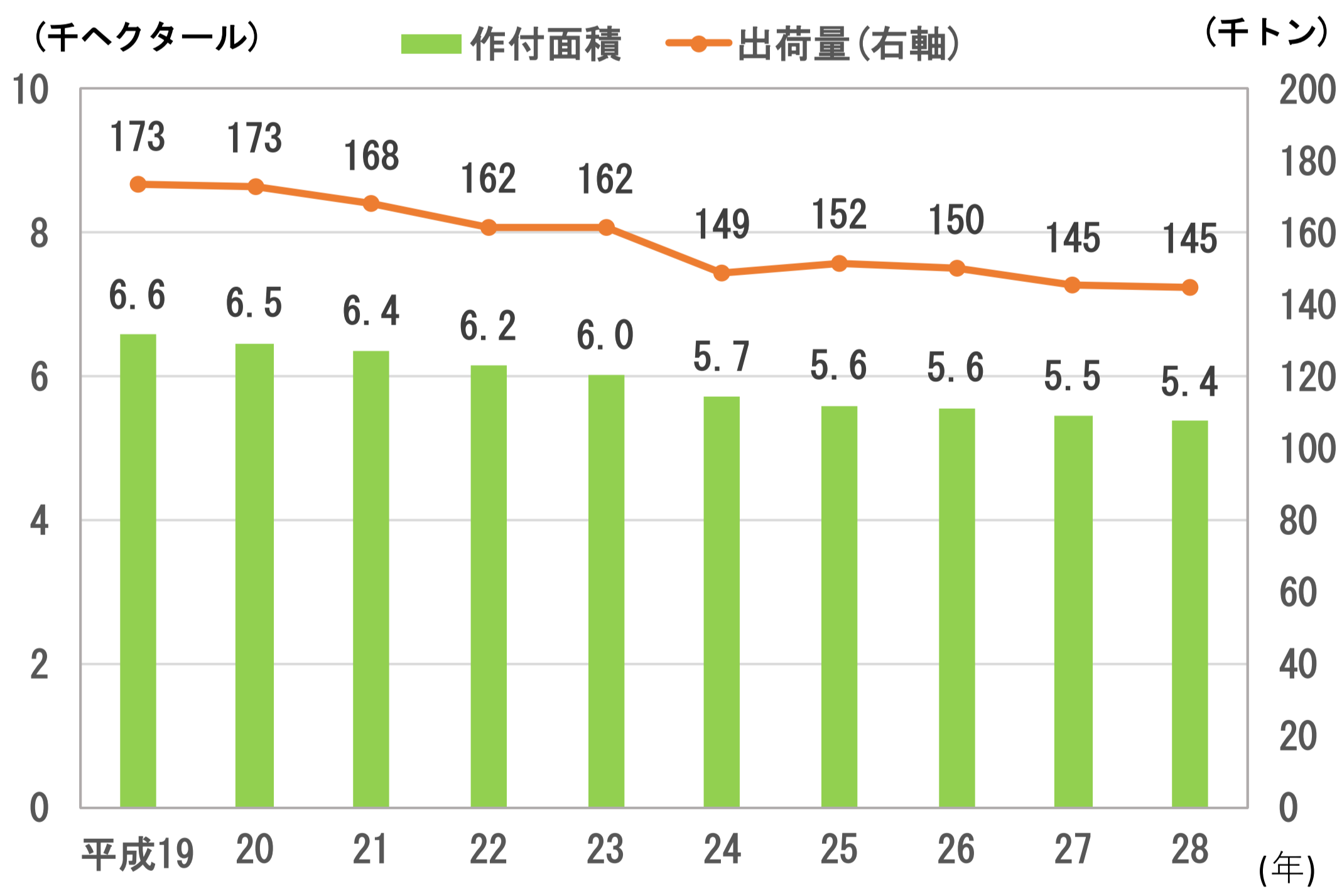


図2 いちごの産地別出荷量(平成28年)

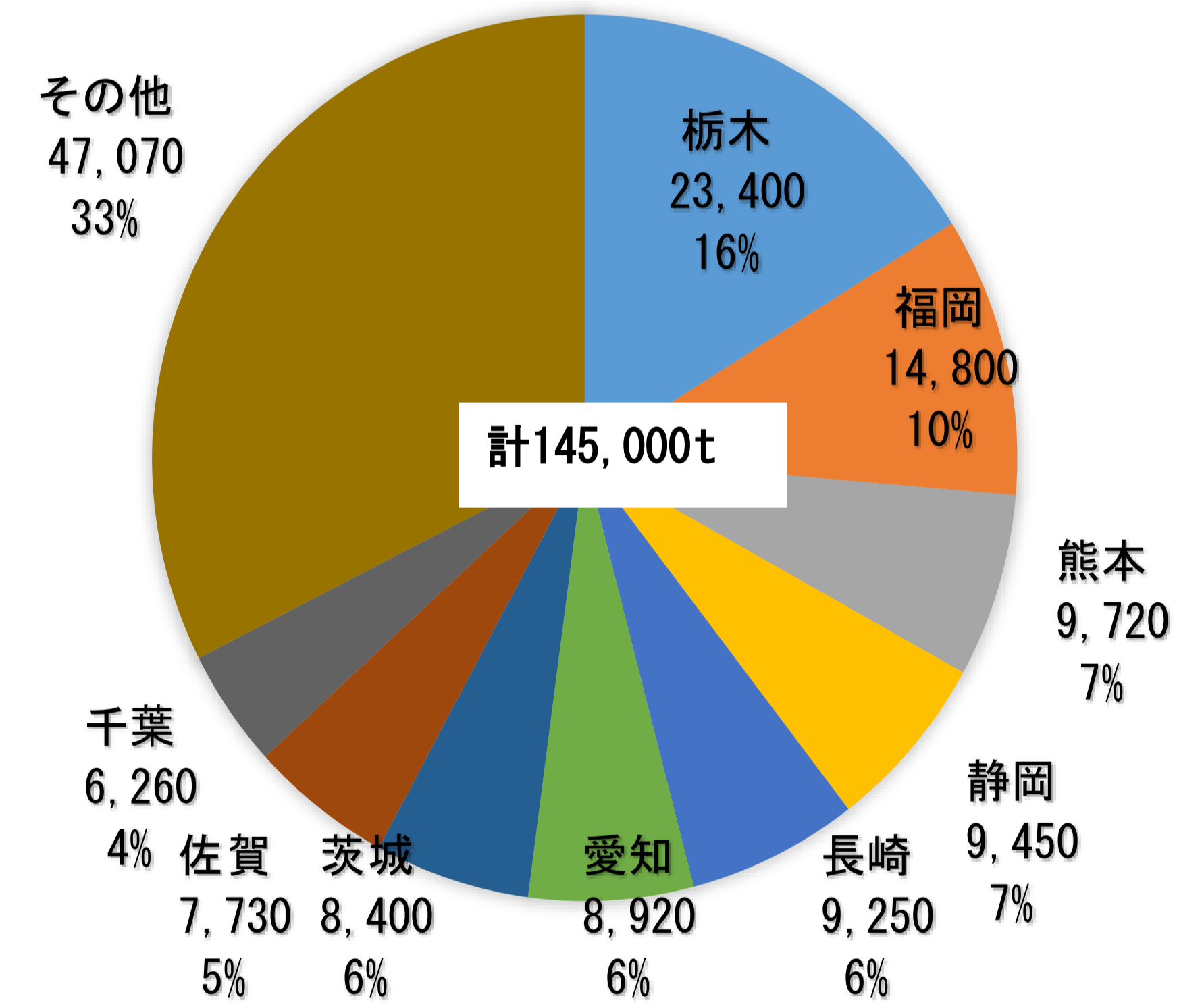


図3 いちごの平成28年月別入荷量(東京都中央卸売市場)

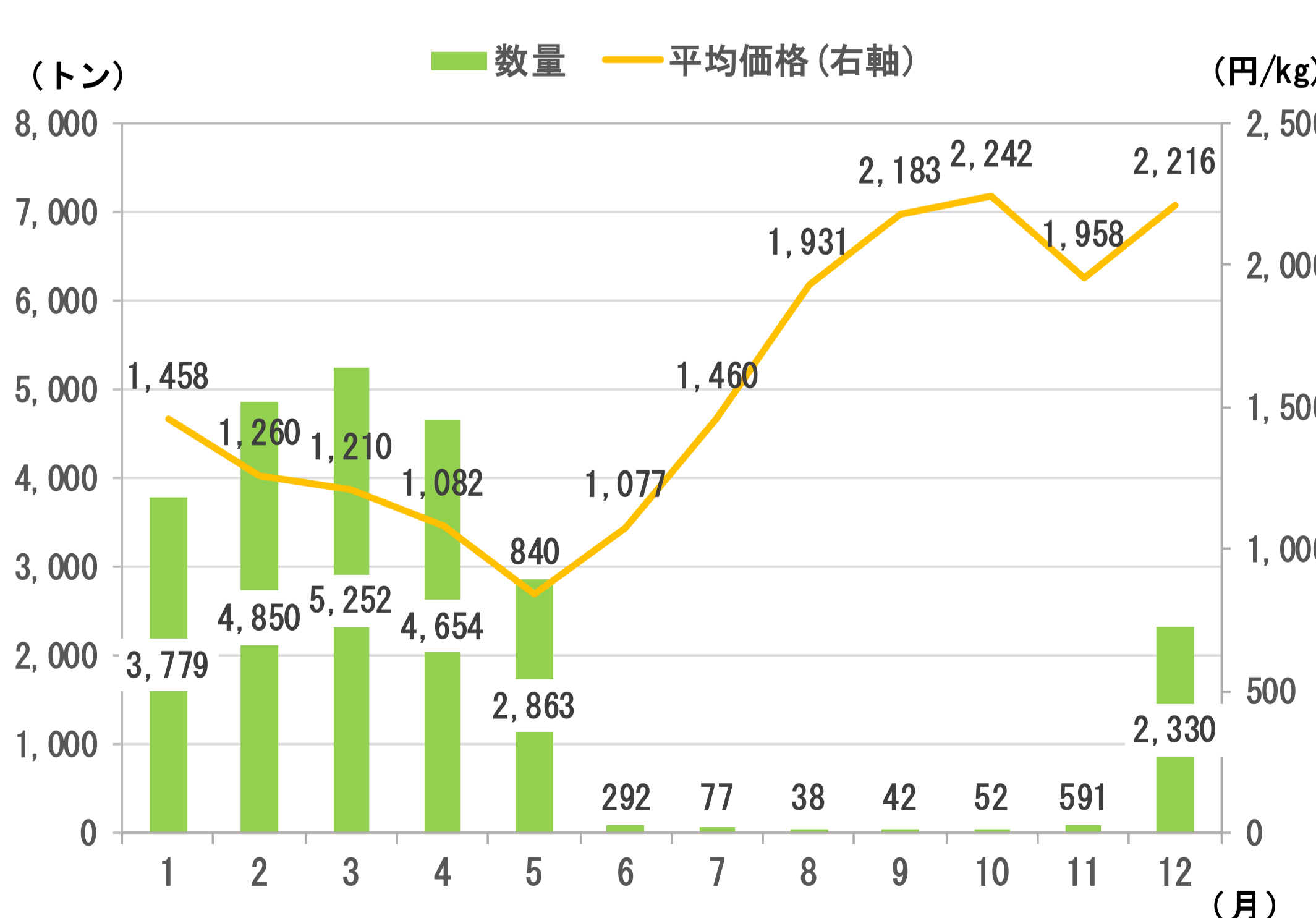
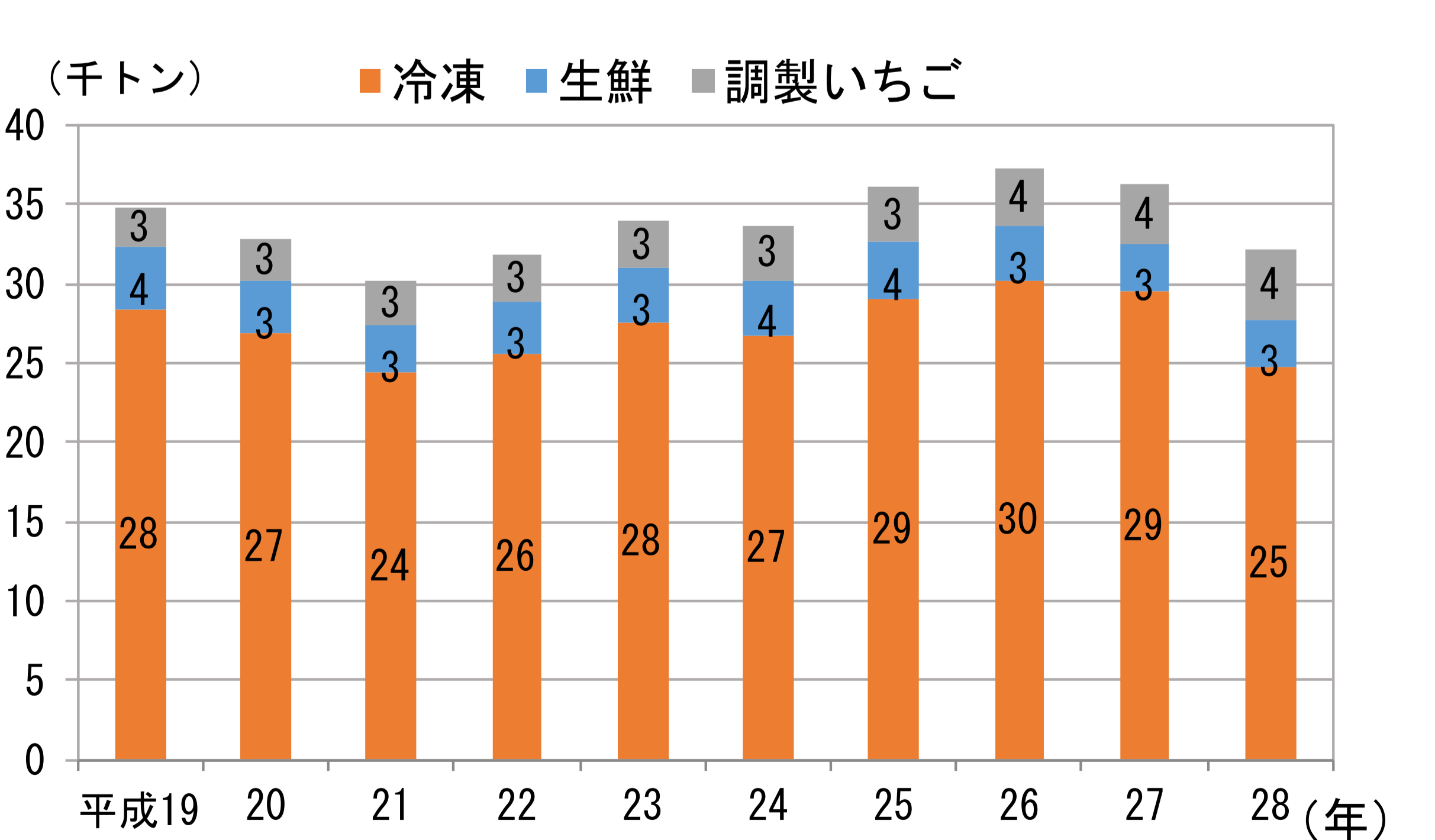


図4 いちごの輸入量



資料:農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料:図1、図2 農林水産省「野菜生産出荷統計」 図3 東京都中央卸売市場「市場統計情報月報」 図4 財務省「日本貿易統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 安藤、松岡、植村 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.aic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
 ※無断転載禁止 ・ レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。